

令和6（2024）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修 実施報告②

実施日：令和6年5月22日（水）

本研修では新たに生涯学習・社会教育関係職員として配属された方々が、業務を遂行する上で必要となる社会教育行政に関する基礎的知識や学習プログラムの企画・立案の技術等を学びます。第2回はオンラインによる研修を行い、41名の生涯学習・社会教育行政に携わる様々な立場の方が受講されました。

○講話・演習「新たな時代の生涯学習・社会教育に求められているもの」

講師：大分大学 教職大学院 教授 清國 祐二 氏

前半は、変化が著しく、人口減少や高齢化など課題が多様化・複雑化する社会の中で「生涯学習・社会教育に求められているもの」「果たす役割」などについて、国の動向を踏まえ、事例などを交えながらお話しいただきました。その中で、Society5.0の概念を用いて、技術革新がもたらす豊かさや便利さがある一方で、人と人との絆やつながりなど、失われているものも大きいという視点をもつことが、社会教育にとって大切であることを示されました。



また、学校の動向を踏まえて、「社会に開かれた教育課程」への転換についてもお話しいただきました。変化の著しい社会の中で、学んだことを人生や社会に生かそうとする、未知の状況にも対応できる資質・能力を子どもたちに身に付けさせるために、学校と社会がビジョンを共有し、連携・協働しながら子どもたちを育てていく重要性について話されました。

後半は、4～5人のグループに分かれて演習を行いました。自己紹介を行った後、自治体として課題を感じ、力を入れている取組や地域住民が感じている地域の課題についてそれぞれの立場から意見交換しました。演習をとおして、自身の学びや気づきを整理するとともに、意見を共有することにより、それぞれの学びの深めることができましたと思います。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・清國先生が例示されていた、運動会の例が大変わかりやすかったです。「便利になって失われるものがある」を強く肝に銘じたいと思いました。
- ・いろいろなことが簡素化されていく中で、無駄に思えることが実は大切であり、便利になる一方で絆が失われているという考え方はとても新鮮でありました。
- ・講義内容を意識しながら、演習に取り組んだことで、改めて自分の業務の中での問題点や改善への糸口を見直しつつ、他の受講生の体験などからヒントを得ることができました。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp